

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
地域理学療法学		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
三科 貴博	D317	t-mishina	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	理学療法は病院に入院している患者のみならず、地域で生活している方も対象になる。地域で生活する方の生活自立支援が行えるように、地域理学療法学では、同時双方向型授業を通して介護保険をはじめとした法制度を学び、地域での理学療法における福祉用具の導入方法、各疾患における評価・介入・リスク管理を説明できることを目的とする。まず地域の概念について講義し、その後、各授業で提示された模擬症例に対するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを行い地域理学療法の具体的な内容について理解を深める。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	模擬症例に対するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等を活発に行うために、指定された授業範囲の予習をしておくことが望ましい。				
教科書	最新理学療法学講座 地域理学療法学/編著:牧迫飛雄馬、吉松竜貴/医歯薬出版株式会社/2021				
参考書	標準理学療法学 地域理学療法学 第4版/監:奈良勲/編:牧田光代、金谷さとみ/医学書院/2018				
外部教材	健康づくりのための運動と栄養摂取の実践 立命館大学 藤田聡 他, JMOOC (予定)				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	地域医療に必要な介護保険等に関する知識を習得し、法制度を説明することができる。			PT(1)~(4)、(6)	
②	地域医療の社会資源、福祉関連用具に関する知識を習得し、導入方法を説明できる。			HSU(1)~(3)、PT(1)	
③	各疾患、ステージ(施設入所など)における対象者の理学療法評価や介入方法について説明できる。			HSU(2)~(3)、PT(1)~(6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	地域の概念と地域包括ケアシステムについて学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	地域包括ケアシステムを中心に講義内容を予復習する。	4	
2	介護保険の仕組みについて学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	介護保険を中心に講義内容を予復習する。	4	
3	ノーマライゼーションとユニバーサルデザインについて学び、模擬症例に対する対応策をGWで検討し発表する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	ノーマライゼーションとユニバーサルデザインを中心に講義内容を予復習する。	4	
4	福祉・リハビリテーション関連用具の導入および家族への対象者に対する介助の指導方法について学び、模擬症例に対する対応策をGWで検討し発表する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	福祉・リハビリテーション関連用具の導入を中心に講義内容を予復習する。	4	
5	加齢に伴う身体的変化およびフレイル(虚弱)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	加齢に伴う身体的変化とフレイルの理学療法評価/介入を中心に講義内容を予復習する。	4	
6	神経疾患(脳卒中等)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	神経疾患に対する理学療法評価/介入を中心に講義内容を予復習する。	4	
7	整形外科疾患(骨折等)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	整形外科疾患に対する理学療法評価/介入を中心に講義内容を予復習する。	4	
8	内科疾患(慢性呼吸不全等)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	内科疾患に対する理学療法評価/介入を中心に講義内容を予復習する。	4	
9	脊髄損傷に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	脊髄損傷に対する理学療法評価/介入を中心に講義内容を予復習する。	4	

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

10	認知症に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	認知症に対する理学療法評価/介入を中心に講義内容を予復習する。	4
11	通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションにおける対象者の理学療法評価および理学療法介入について学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	通所および訪問リハビリテーションの対象者の理学療法について講義内容を予復習する。	4
12	施設入所者および終末期における対象者の理学療法評価および理学療法介入について学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	施設入所者や終末期の対象者の理学療法について講義内容を予復習する。	4
13	[症例提示]対象者に対して必要な評価・支援や福祉・リハビリテーション関連用具の導入などについて検討する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	第 1~12 回講義の内容を復習する。提示症例に対して必要な支援や福祉・リハビリテーション関連用具の導入、評価治療に関する知識を予習する。	4
14	[症例提示]対象者に対して必要な評価・支援や福祉・リハビリテーション関連用具の導入などについて検討する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	第 1~12 回講義の内容を復習する。提示症例に対して必要な支援や福祉・リハビリテーション関連用具の導入、評価治療に関する知識を予習する。	4
15	[症例提示]対象者に対して必要な評価・支援や福祉・リハビリテーション関連用具の導入などについて検討する。 意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	第 1~12 回講義の内容を復習する。提示症例に対して必要な支援や福祉・リハビリテーション関連用具の導入、評価治療に関する知識を予習する。	4
試	定期試験 到達度評価・評価のポイント参照			

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		50	30	0	0	20	100	
総合力指標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20	
	思考・推論・創造する力	20	10	0	0	0	30	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
	問題を発見・解決する力	10	10	0	0	0	20	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	講義で使用した配布資料や教科書をもとに、理解度を問う定期試験を行い評価する(筆記試験、50点満点)。問題形式は選択式とする。				必要に応じて試験の解答を提示し、解説をする。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	第 13・14・15 回では、提示された症例に対する問題点を考え、適切な介護サービス、環境整備、評価・介入を考察し、それぞれレポートとして提出する。レポートは 30 点満点で、思考力・表現力・問題解決能力を評価する。				必要に応じてルーブリックによるレポートの採点結果を提示し、フィードバックする。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	第 3・4 回にグループワーク、ディスカッション、発表を行い、主体的に取り組み、発言し、コミュニケーションをとっているかを 20 点満点で採点する。	必要に応じて採点結果を提示し、フィードバックする。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
備 考				
他 担 当 教 員				
教員の実務経験	理学療法士として医療機関及び介護保険関連施設にて 9 年間の臨床経験を有する。			
実践的授業の内容	理学療法士として医療機関及び介護保険関連施設で勤務経験を有する教員が地域理学療法に関する評価から治療、環境整備、リスク管理の流れに関する基本知識と技能を教授する。			
そ の 他	同時双方向型授業では Teams を使用予定で、授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推す。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。			